

# 香川インターハイ 派遣報告書

令和4年8月1日(月)

報告者：隈元 ゆみこ

派遣期間：7月26日(火)～7月31日(日)

場 所：丸亀市民体育館(27～29日)、香川総合体育館(30日)、高松市総合体育館(31日)

## ◆審判会議及び審判研修会

7月22日(金) 19:00～20:30 Zoomにて実施

- ・審判会議(歓迎の挨拶、主催者挨拶、JBA 派遣講師紹介)
- ・大会前研修

<研修1>「インテグリティ」 前田氏

自身の行動には十分責任と自覚をもって臨む。

RFG 見苦しい振る舞い等については、しっかりと対応。

<研修2>「香川IH 成功に向けて」 有澤氏

担当チームの県内大会、ブロック大会、過去の試合のスタッツや試合映像等を使用し、できる範囲でスカウティングを。

『処置ミスゼロ、トラベリング、ポジションアジャスト』この3つを大会共有事項として取り組む  
PGCにもトピックとして加える。

主体的取り組みで、それぞれがCCMを発揮。

TOとの連携(ゲーム開始40分前にTOミーティング)

万全の体調で香川入りを。コロナ等の対応により、変更等もあり得ます。

<研修3>「より良い判定のためのポジション・アジャスト～地元香川での取り組みを踏まえて～」 塩谷氏  
ポジションアジャストを進める上での共通理解

具体的なポジションアジャスト

9つのケースを、映像を用いて解説。

<諸連絡> 香川県 仲地氏

輸送・宿泊・財務関係について

感染症対策について

審判必携確認

<その他>

TOの高校生たちが実技研修を十分にできていない中での大会であるので、TOとのコミュニケーション等についてもよろしくをお願いします。

## ◆担当ゲーム

7月27日(水) 1回戦 日本航空(山梨) VS 龍谷富山(富山)

CC:隈元 U1:藤田(香川A級) U2:藤岡(香川B級)

7月28日(木) 2回戦 仙台大学附属明成(宮城) VS 延岡学園(宮崎)

CC:隈元 U1:穂川(群馬A級) U2:中屋敷(大分A級)

7月29日(金) 3回戦 東海大学附属福岡(福岡) VS 土浦日本大学(茨城)

CC:隈元 U1:前田(愛媛A級) U2:三島(広島A級)

7月30日(土) 4回戦 スタンバイ

7月31日(日) 準決勝 京都精華学園(京都) VS 八雲学園(東京)

CC:堀内(愛媛S級) U1:隈元 U2:鈴木(北海道S級)

#### ◆PGC

##### <1~3回戦>

- ・事前に入手した県総体映像から、いくつか気になるケースをクリップしたものを活用。(いくつか気になったケース、トラベリング、キープレイヤー、メカなど)
- ・インハイ TVにアップされている前日のゲームの映像から。
- ・IH 審判研修でのテーマ、「ポジションアジャスト、トラベリング、処置ミスゼロ」について。
- ・クルーワーク について。
- ・留学生に対する Def やペイントで起こることについて。
- ・前日に担当したゲームでのメカニクスやクルーワーク、クロック管理等について。
- ・TOとの連携について。

3人で協力して、最後の0:00までしっかりレフェリングしようと確認して臨んだ。

##### <準決勝>

- ・IH 研修テーマに沿って。  
シンプルなプレイコーリング、ベーシックなメカニクス、処置ミスゼロ、ポジションアジャスト、コミュニケーション
- ・留学生に対するマッチアップ、ペイントで起こることについて。
- ・インハイ TVにアップされていた2回戦の映像クリップを活用し、ルールやメカの確認。
- ・何かおかしいな?と思ったら、その時にコミュニケーションをとって解決して臨む。そのためにゲームを止めることを恐れない。終わってから、「やっぱりそうだったか」とか「そう思っていたけど」といったことがないように。勘違いや間違いはあるので、コミュニケーションをとりましょう。

#### ◆TO ミーティング (40分前)

- ・お互いの自己紹介、役割
- ・TO 主任からの連絡(電光掲示へのチーム表示について等)
- ・オフィシャルチームとして、一緒に頑張りましょう。

#### ◆ゲームの実際

##### <1回戦>

スカウティング通り、留学生に対する Def、留学生と龍谷のエースとのマッチアップがキーとなるゲームであった。フロントコートから仕掛けてくる Def に対して、C to C をどう工夫するか、T と C でのチェックイン・チェックアウトが打ち合わせ通りできたことで、しっかりと判定につなげることができた。最後まで留学生と日本人センターのマッチアップからは目を離せないゲームであった中で、視野の分担であったり、プレイの捉え方であったり、メカニクスも含めて、今後の課題となることがいくつかあった。

##### <2回戦>

ゲームの序盤から両チームに対してトラベリングの基準をしっかりと示すことができた。インサイドでの攻防、フロントから仕掛けてきた時の Def の身体の寄せなど、判定につながってはいるものの、誰がプライマリとして判定した方が良かったのか?というケースがいくつかあった。今回のテーマの一つであるポジションアジャストについても、まだまだ工夫が必要であったと感じた。特に、速攻でのクイックショットに対するプロテクトシュートの判定について、難しいケースがあった。映像を確認し、解決策を模索したい。

### <3回戦>

留学生に対する守り方をクルーとしてしっかり誰かが目を当てておこうということで臨んだが、なす術のない状況であったので、特に大きな問題はなく、それぞれが、プライマリでのシンプルな判定をすることができた。リバウンド争いの中で、Lも判定に参加したい場面で、Cからの判定が入ってくれたことで助かったケースがあった。いくつかアピールがある中で、両コーチとうまくコミュニケーションを図ることができたことは収穫であった。

### <準決勝>

ゲーム序盤で、トラベリングや3secの判定が入ることで、テンポセットにつながった。

京都の留学生に対するDef、京都10番と八雲4番のマッチアップなど、ペイント付近やペイント内で起こることに対して、必ず誰かが目を当てておくことで判定につなげることができた部分はあったが、ローテーション中での判定については、決断したものの、本来は誰が長くプレイを捉えてcallすべきだったのか、また、プライマリーとしてインパクトに対して決断したものの、捉え方としてどうだったかという課題が残った。また、ローテーションのタイミングについても、少し早かったり、少し躊躇してしまったりと、大きくメカニクスでのトラブルには繋がらなかったものの、課題として残った。ゲームの終わらせ方についても、余計なことを考えず、シンプルな判定をした方が良かったのではないかと感じた。

## ◆ゲーム後のクルーMTG

### <1回戦>

- ・インサイドの整理がもう少し必要であった。最後まで、お互いがやり合っていたので、仕掛けのところでしっかりとPrimaryが判定につなげたかった。
- ・ボールがフロントコートに運ばれる際に、Cサイドに向かってくるケースが多かったため、Cが残って捉えてくれていたことで、助かったケースがいくつもあった。
- ・クルーでコミュニケーションを図りながらゲームを進めることができた。

### <2回戦>

- ・トラベリングに関して、ゲームの入りでしっかり示せたことはよかった。
  - ・ベンチの声に対して、コーチとコミュニケーションをとることで、協力を得ることができた。
  - ・ゲーム終盤の、速攻でのクイックショットに対するDefの見方について、TやCが絶対的に間に合わない状況であったため、Lが少し残ってプレイを確認すれば判定につなげることができたのではないかと感じた。
- この点に関しては、映像を見て、しっかり検証しておきたい。

### <3回戦>

柳田氏（山口県S級）より

- ・ゲームフローの観点から、前半は、ゲーム展開が福岡優勢で進んでいく中で、審判がゲームの流れを止めてしまっているようなところはなかったか。また、後半、福岡のセカンドメンバーが出てきた際には、改めてゲームをクリーンに進めていくために、しっかり示すべき場面があったのではないかと感じた。
- そういう観点から、映像を見てゲームを振り返ることをしてみてもいいかな。

堀内氏（愛媛県S級）より

- ・良いクルーワークが発揮されていたと感じた。誰かが見えないところは、必ず誰かが拾っていて、しっかりと判定されていたところが、クルーとしてうまくいっていると感じた。

### <準決勝> 塩谷氏（愛知S級）より

- ・ゲーム序盤で、トラベリングに対してしっかり示せていた。クロックやTO管理も含め、CCを中心にできていた。
- ・いくつかのビッグインパクトに対して、笛が入っていたのは良かったが、判定としては、どのように捉

えた方が良かったのか。POC や誰がそのプレイを長く捉えていたのか、ゲームフローを含めて、映像を検証して欲しい。

・ゲームの終わらせ方についても、シンプルに call して、シュートで終わらせても良かったのではないかな。

#### ◆全体を通して

コロナ感染が再拡大している中で、無事に大会を迎えることができたことは、本当に良かったと感じました。感染予防に努めながらの大会であったため、全国から集まってきた仲間とたくさんのコミュニケーションをとることはできませんでしたが、同じ会場の担当審判やクルーと少しではありますが、コミュニケーションを図ることはできたので良かったです。いくつかのチームに棄権があり、大会期間中の感染等の心配もありましたが、無事に割り当ていただいた4試合を終えることができ、ホッとしています。それぞれのゲームで反省や課題、収穫がありました。それらを、県内の審判員に還元していけるよう、自分自身も日々研鑽を積み重ねていきます。

今回の派遣にあたり、大変お世話になりました香川県バスケットボール協会、香川県高体連の皆様、また、参加に当たってご配慮いただきました原田審判委員長はじめ、鹿児島県バスケットボール協会の皆様に感謝し、拙い内容ではありますが、香川IH派遣の報告といたします。ありがとうございました。